



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

木材価格の形成機構に関する研究：
ヒノキ丸太の商品分化

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-06-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 林, 進, 浦, 寿明, 谷, 基 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/5874

木材価格の形成機構に関する研究

—— ヒノキ丸太の商品分化 ——

林 進・浦 寿明*・谷 基**

森林経営学研究室
(1987年7月31日受理)

Studies on Timber Price System

—— Specialization of Lumber Goods of *Hinoki* Cypress ——

Susumu HAYASHI, Toshiaki URA and Hajime TANI

Laboratory of Forest Management
(Received July 31, 1987)

SUMMARY

In this study, in order to find the pricing types of lumber goods, we classify the length and diameter of *Hinoki* cypress logs and investigate the correlation of volume, price of log stacking and unit price of a cubic meter. The results are as follows.

Thin logs with a length of 3 meters and 4 meters have the correlation of volume and price of log stacking. Otherwise, middle logs with a length of 6 meters and big logs of 4 meters have the correlation of price of log stacking and unit price of a cubic meter. Accordingly, we distinguished the former as the prescribed pricing type by the volume of log stacking from the latter as the prescribed pricing type by unit price of a cubic meter.

Mid-way between these two types, there are pillar logs with a length of 6 meters. In this type the two pricing types mentioned above coexist and diverge clearly, so we call this type the divergent pricing type.

We consider that these three types are model types of pricing *Hinoki* cypress logs in the lumber market.

Res. Bull. Fac. Agr. Gifu Univ, (52) : 81—92, 1987.

要 約

ヒノキ丸太を、径級と長級とによって区分された桤ごとに、材積と桤価格の相関、桤価格と m^3 単価の相関を見て、価格形成タイプを検出した結果、次の事実が判明した。

小丸太3m材と小丸太4m材とは、材積・桤価格相関を有し、桤価格・ m^3 単価の相関はない。従って、この価格形成タイプを材積規定型となし得る。そして、この対極にあるのが中目6m材と大丸太4m材で、上述2つの相関が全く逆になっている。そこでこれらを m^3 単価規定型とした。

* 材摠木材株式会社
** 岐阜県立斐太農林高等学校

以上 2 タイプの中間型として柱 6 m 材があり、この柱では材積規定型と m^3 単価規定型の 2 タイプが共存しかつ明瞭に 2 区分されて現れる。これを 2 分化型とした。

これら 3 タイプのそれぞれの中間に、柱 3 m 材と柱 4 m 材のグループと、中目 3 m 材と中目 4 m 材のグループがある。前者は、材積規定型が崩れて行く過程にあるため分化移行型とし、後者は、 m^3 単価規定型への移行型であるため収束移行型とした。

緒 言

丸太商品の市場流通において、原木市売市場が果たす機能は、時代と共に変化している。昭和30年代、わが国経済の高度成長に対応して木材需要量は急増した。同時に、大量の丸太を集積し、配給する機能を果たす原木市売市場の開設も相次いだ。それら原木市売市場の機能は、品不足・売り手市場下、原木量の集積力に集約して現れたといえよう。

時代が進んだ現在、外材主導下の国産材の価格形成が主軸をなしている。この時に至って原木市売市場を、丸太商品の市場流通において、どのように位置づけするか、という問題が、国産材の買い手市場化状況の中で、重要になっている。

本論文ではその問題に、原木市売市場におけるヒノキ丸太の商品分化実態の分析面からアプローチし、原木市売市場を軸にした木材価格形成機構の研究推進の一環とする。

なお本研究は、文部省科学研究費総合 (A) 課題番号60301102の補助により遂行されている成果の一部である。

I 課題の設定と研究方法

1. 課題の設定

丸太商品は長・径級によって、ある程度の利用範囲が設定されるとはいうものの、本質的には、買い手ごとに用途が決められるという特性を持つ。徒って、丸太の売り手が丸太の用途の限定 (同時に買い手の限定) を行う操作である丸太の商品仕訳をどのように行うかは、丸太の買い手が、丸太の購入・丸太の製材加工・製材品の販売という一連の市場行動を、いかに編成しているかに大きく規定される。言い方を変えれば、丸太の売り手として原木市売市場が、丸太の商品仕訳を、市売市場自らが主体的に展開する市場行動となし得ているかどうかを、丸太を購入する買い手行動の分析によって評価できることとなる。そして、このような市場行動の成果として、丸太の価格形成がなされる。

丸太の商品仕訳は、すなわち丸太の商品分化を示す。そして丸太の商品分化は、その商品特性化の指標となる。市売市場における丸太商品の売買は、分化・特性化された商品ごとの買い手間相互の競争及びそれぞれの商品間の買い手分化の動きの中で遂行される。丸太売買をめぐる買い手相互の競争・分化は、総体として丸太購入の買い手間競争構造を形成する。

木材市場の外材主導下、国産材市場は縮小し、流通を担う機能体も活力及び自立性を失いつつある。外材対国産材という二者対置構造を設定すれば、外材独占下、国産材の市場競争力は減退している。その結果、国産材についての買い手市場化が一層進行し、その中で流通機能体、たとえば原木市売市場の機能の意義づけの重要性が増大している。

考えてみれば、高度経済成長期、従って物不足・売り手市場時代に形成された市売機能が、現在もそのままに健在であり得るはずはない。外材主導化の要因を捨象したとしても、いわゆる“市場の成熟”と共に、市売市場機能の再考・再編が論議されねばならなかったはずである。

現在、外材主導化の動きに円高要因が加わり、国産材市場の定常化は、既に一般的事実となった。世に“国産材時代”がもてはやされても、それに対応する市場構造、市場行動、市場成果の検討がなされなければ、それはまさしく画餅としての政策のかけ声のみに終わってしまおう。重要なのは、現在再編期にあると見なされる国産材の流通構造を精緻に解析し、どのような市場行動が展開され、いかに市場成果を獲得しているかを明らかに示すことであろう。

本論文では市場流通の要 (かなめ) を占め、価格形成上必要な機能を果たす位置にある原木市売市場を

とらえ、丸太商品がどのように販売され、それに対応して買い手行動がどのように編成されるかを分析し、国産材の有効競争確保の道すじを、少しなりとも照射してみようとした。それは又、価格形成という、経済主体としての自律要件の形成を通してこそ見られ得るものであることから、本論文では、それを、丸太の商品特性化の実態を通して考察した。

2. 研究の対象及び方法

研究対象は、岐阜各務原市須衛にある木材流通団地内の岐阜原木相互市場である。本市売市場の昭和61年4月分（12日及び19日の市売分）の売上伝票を分析対象とした。本市売市場を選んだのは、岐阜県内の製材工場向けにヒノキ丸太を集積し、供給する役割を本市場が果たしており、ヒノキ丸太の買い手については、すべてのタイプを含み得ているからである。又、4月分の市売実績を選んだのは、入荷が安定し、かつ価格形成上の攪乱要因が存在しない、という市場運営者の助言に基づく結果である。

II 岐阜原木相互市場の概要

岐阜原木相互市場は、昭和35年7月岐阜市日置江に開設された。その当時は約10,000 m²の敷地で、素材、製材品を取り扱う複式市場として、有数の市場として発足したものである。

昭和51年に至って、現在の岐阜木材流通団地内に移転し、敷地面積も約20,000 m²となり、国産材素材専門複式市場として確固たる地位を築いている。

市は、毎週土曜日午前10時から開かれ、せりが行われる。市の案内は約400人の業者に発送される。この4分の1が固定常連客である。1回の市の平均桝数は2,500口で、年間取扱い量は、約35,000 m³である。樹種は、スギ、ヒノキがほとんどで、両者の割合は、半々である。

丸太の買い手は、製材業者がほとんどである。スギは、愛知県、奈良県、福井県と広域流通するが、ヒノキは、県内製材工場がほとんどを買い付ける。これは、岐阜県がスギ製材に関しては、それ程大きな力を発揮し得ないのに対して、ヒノキに対しては、ほとんどすべての製品種を挽きこなせる製材工場群が活動している条件から規定される事実である。

III 市売結果の分析

本研究の課題であるヒノキ丸太について、市売結果を分析する。

1. 丸太の仕訳区分と構成比

岐阜原木相互市場では、次のように丸太の径級別仕訳区分がされている。

小丸太：径級6～11 cm

柱丸太：径級12～18 cm

中目丸太：径級20～28 cm

大丸太：径級30 cm 以上

又、長級の基準値は、2 m、3 m、4 m、6 m、8 mとなっている。丸太の商品区分は径級と長級の組み合わせによってなされる。これを一覧表で示したのが、表1である。整理、分析の便宜上、それぞれS2、H4…というように記号化しておく。

この仕訳区分に従って、実際に販売された桝について構成比を見たのが表2である。柱丸太3 m、中目丸太3 mが、それぞれ全体の4分の1を占め、本市場の中核商品であることが分る。

2. 桝区分別材積、m³単価、桝価格分析

区分した桝仕訳基準別に、桝材積、m³単価、桝価格について、平均値、標準偏差及び変動係数を算出し、一覧表としたのが表3である。

小丸太は、m³単価の“相場値”がはっきりしており、ばらつきが小さいと言われているが、演算結果を見ると3 m材で変動係数0.30、4 m材で0.24と小さい値を示しており、一般の定評を裏づけている。

柱丸太については、特に3 m材、4 m材でどの要素も変動係数が大きく、桝ごとの変異差の大きさを示している。

中目丸太について見ると、2 m材では桝価格の変動係数の大きさが目立ち、3 m材、4 m材ではそれ

表 1 長級・径級による区分

Table 1. Classification of length and diameter of logs
Length

Diameter	長級 径級	2 m 記号 Mark	3 m 記号 Mark	4 m 記号 Mark	6 m 記号 Mark	8 m 記号 Mark
	6~11cm 小丸太 Thin	S 2	S 3	S 4	—	—
12~18cm 柱丸太 Pillar	H 2	H 3	H 4	H 6	H 8	
20~28cm 中目丸太 Middle	M 2	M 3	M 4	M 6	M 8	
30cm~ 大丸太 Big	L 2	L 3	L 4	—	—	

表 2 区分別桝数割合 (岐阜原木相互市場)

Table 2. The distribution ratio of numbers of log stacking (The Gifu Sohgo lumber market)

Classification of diameter	Mark	Numbers of log stacking	Percentage to total numbers	Percentage to total numbers of diameter class
径級区分	記号	桝数	全体に対する割合%	径級区分内割合%
小丸太 Thin	S 2	23	1.3	8.6
	S 3	142	8.3	53.2
	S 4	102	6.0	38.2
	Total	267	15.6	100.0
柱丸太 Pillar	H 2	57	3.3	9.4
	H 3	454	26.6	75.0
	H 4	46	2.7	7.6
	H 6	47	2.8	7.8
	H 8	1	0.1	0.2
Total	605	35.4	100.0	
中目丸太 Middle	M 2	41	2.4	5.4
	M 3	427	25.0	56.0
	M 4	233	13.6	30.6
	M 6	59	3.5	7.7
	M 8	2	0.1	0.3
Total	762	44.6	100.0	
大丸太 Big	L 2	5	0.3	6.7
	L 3	11	0.6	14.6
	L 4	59	3.5	78.7
	Total	75	4.4	100.0
Total		1,709	100.0	—

表3 材積・m³単価・桧価格の平均値・標準偏差・変動係数

Table 3. Average, standard deviation and coefficient of variation of volume, unit price of a cubic meter and price of a log stacking

		Volume			Unit price of a cubic meter			Price of a log stacking		
		材 積			m ³ 単 価			桧 価 格		
		1 m ³	2	3	1 Yen 円	2	3	1 Yen 円	2	3
S	3	0.27	0.26	0.95	14006.10	4201.11	0.30	4033.60	4250.43	1.05
S	4	0.34	0.41	1.23	20058.80	4760.65	0.24	7274.47	9677.42	1.33
H	2	0.20	0.18	0.89	13122.80	8063.50	0.61	2655.19	3915.99	1.47
H	3	0.44	0.55	1.27	52273.20	49314.30	0.94	20452.90	27226.40	1.33
H	4	0.27	0.37	1.33	49195.70	53888.20	1.10	12459.40	17081.80	1.37
H	6	0.43	0.42	0.98	83617.00	52841.60	0.63	30793.30	23024.10	0.75
M	2	0.23	0.18	0.76	19853.70	10728.50	0.54	4735.41	4898.78	1.03
M	3	0.28	0.22	0.79	80899.40	57716.20	0.71	19280.90	16018.90	0.83
M	4	0.38	0.28	0.75	85201.70	46259.10	0.54	30108.90	20945.80	0.70
M	6	0.38	0.13	0.33	138983.00	59878.30	0.43	55077.60	32483.50	0.59
L	4	0.48	0.19	0.39	120932.00	50400.70	0.42	58019.20	31060.00	0.54

Notes

1: 平均 Average 2: 標準偏差 Standard deviation 3: 変動係数 Coefficient of variation

が見られない。2 m 材は、桧価格水準の調整が行われず、3 m 材、4 m 材ではそれが行われていると考えられよう。

中目丸太、大丸太共に6 m 材になるとそれぞれの要素が安定化した高水準で価格形成がなされていることが分る。

3. 桧区分別材積、m³単価、桧価格連関分析

既述の桧区分別に、材積・桧価格、桧価格・m³単価の連関分析を行った。それぞれ二因子間の連関を見るため散布図を作成した。ただし、桧数の少い小丸太2 m 材、柱丸太8 m 材、中目丸太8 m 材、大丸太2 m 材、同3 m 材については省いた。

(1) 小丸太3 m 材及び4 m 材について

小丸太3 m 材 (S 3) 及び4 m 材 (S 4) の材積・桧価格散布図と桧価格・m³単価散布図は、図1、2に示した。図1を見ると、材積と桧価格には相関関係があることが示されている。相関係数を算出すると、S 3では0.96、S 4では0.98と高い相関を示した。

図2を見ると、m³単価はほとんど変動がなく、桧価格の増大に連関していないことが示されている。小丸太については、ほぼ一定の“相場値”のあることが示されている。

(2) 柱丸太2 m, 3 m, 4 m, 6 m 材について

柱丸太2 m 材 (H 2) の材積・桧価格散布図と桧価格・m³単価散布図は、図3に示した。いずれもサンプルが狭い範囲の値に分布し、相関は明確ではない。しかし、材積と桧価格との間には相関関係があることがうかがわれる。

柱丸太3 m 材 (H 3) について同様の図を、図4に示した。材積・桧価格散布図を見ると、両因子の相関の高い桧の分布が主になっていることが分る。又、桧価格・m³単価散布図を見ると、m³単価があまり変動せず桧価格が大きくなる桧の分布と桧価格があまり変動せず m³単価が変動する桧の分布との二分化の

要因を内包していることが分る。

柱丸太 4 m 材 (H 4) については、図 5 に示した。サンプルは少いが、材積・桝価格散布図においては、材積と桝価格が相関関係にある桝の分布と材積が変動せず桝価格が変動する桝の分布との二分化が見られる。又、桝価格・ m^3 単価散布図においては、 m^3 単価が変らずに桝価格が変動する桝の分布と桝価格の狭い範囲で m^3 単価が変動する桝の分布との二分化が見られる。

柱丸太 6 m 材 (H 6) については、図 6 に示した。材積・桝価格散布図については、材積と桝価格とが相関関係をもっている桝の分布と材積が変動せず桝価格が変動する桝の分布との二分化が明瞭に認められる。又、桝価格・ m^3 単価散布図を見ると、 m^3 単価が変動せずに桝価格が変動する桝の分布と桝価格と m^3 単価とが相関関係にある桝の分布の二分化がはっきり示されている。

(3)中目丸太 2 m, 3 m, 4 m, 6 m 材について

中目丸太 2 m 材 (M 2) については、図 7 に示した。サンプルが狭い範囲に集中しているため特徴はよく分らない。

中目丸太 3 m 材 (M 3) は、図 8 に示した。材積・桝価格散布図においては、材積が変動せずに桝価格が変動する桝の分布と両因子が相関関係にある桝の分布が弱いながらも認められる。又、桝価格・ m^3 単価散布図においては、両因子が相関関係をもって変動する桝の分布が主で、 m^3 単価が変動せず桝価格が変動する桝の分布が弱いながらも分化しているのが認められる。

中目丸太 4 m 材 (M 4) は、図 9 に示した。M 3 で見られた分布の特徴が、M 4 において一層明瞭にあらわれている。

中目丸太 6 m 材 (M 6) については、図 10 に示した。これについてはきわめてはっきりした分布の特徴が見られる。材積・桝価格散布図においては、材積が変動せずに桝価格が変動して分布し、桝価格・ m^3 単価散布図においては、両因子が相関関係をもって変動することが示されている。

(4)大丸太 4 m 材について

大丸太 4 m 材 (L 4) については、図 11 に示した。M 6 にあらわれた分布の特徴が、ここでは更に鮮明に示されている。

4. 小 括

以上の結果を一覧表にしたのが表 4 である。原木市売市場において、丸太の取引は桝単位で行われ、従って価格形成も又、そのように行われる。そして、桝ごとの価格形成は、表 4 のように、丸太の長・径級区分、すなわち商品区分ごとに規定因子が異なる。価格形成規定要因面から、いくつかの分類が可能となる。丸太の商品分化は、長・径級指標と価格形成規定要因との連関のもとで現実化しているわけである。

表 4 の検討に戻る。価格形成タイプの基軸型は、「材積規定型」と「 m^3 単価規定型」とを両極とし、その中間に介在する 2 因子均衡の「2 分化型」の 3 タイプである。桝区分で示せば、S 3 材積規定型～H 62 分化型～L 4 m^3 単価規定型への移行である。基軸 3 タイプの中間は、それぞれ「分化移行型」と「収束移行型」として分類できる。

IV 考 察

1. ヒノキ丸太の商品分化と買い手間競争構造

ヒノキ丸太の価格形成タイプは、上述のように 5 区分できることが分った。これらは、同時に価格形成因子面から見た、ヒノキ丸太の商品分化を示している。丸太商品は、小丸太、柱丸太等々といった径級及び 2 m, 3 m 等々の長級という因子で分類されるのみならず、このように価格形成因子面からも分類される。前者は、丸太が伐採・採材された時点で既に持っている基本的属性に基づくもので、尺度さえ決めれば、誰でもどこでも同じ分類がなされる。

これに対して後者は、実際に丸太が売買される段階で、桝という丸太商品ロットごとに、買い手がどの因子を基準にして買い行動に出ているかの結果を示すものである。従って、このような分類は、市場流通過程においてこそ顕在化して示し得る。まさに、商品分化たる実体を持っていると言ってよい。

次に買い手間競争構造を考えよう。

表4 価格因子総括表
Table 4. The generalization of price factors

	Factor	Correlation of volume and price of timber stacking	Correlation of timber stacking price and unit price of a cubic meter	Pricing type
Classification	因子区分	材積・桧側格の相関	極価格・m ³ 単価の相関	価格形成タイプ
	S 3	有 Yes	無 No	材積規定型 Prescribed type by volume of timber stacking
	S 4	有 Yes	無 No	
	H 2	有 Yes	?	
	H 3	有 Yes	有・無分化 Divergence	分化移行型 Shift type
	H 4	有・無分化 Divergence	有・無分化 Divergence	
	H 6	有・無分化 Divergence	有・無分化 Divergence	2分化型 Divergent type
	M 2	?	?	
	M 3	有・無分化 Divergence	有・無分化 Divergence	収束移行型 Shift type
	M 4	有・無分化 Divergence	有・無分化 Divergence	
	M 6	無 No	有 Yes	m ³ 単価規定型 Prescribed type by unit price of a cubic meter
	L 4	無 No	有 Yes	

丸太の買い手は、市場で桧単位に購入行動を起している。その際、買い手の購入行動展開の客観的尺度は、桧価格の水準がどのぐらいになるかということである。買い手の購入能力は、すなわち資金力であり、その水準は購入可能な桧価格の選択によって示される。

ところで桧価格は、材積とm³単価の関数関係で示し得るが、いずれの因子が規定要因になっているかは桧によって異なり、その内容は既述したとおりである。この結果、買い手間における桧購入競争は、小丸太（材積規定型桧価格形成）においては、m³単価をどれだけ正確に読み込めるか、ということが桧購入競争に参画できる基準となる。

既述のように、小丸太桧においては、購入された桧のm³単価変動値は小さい。このことは、桧価格がまず第一次的にはm³単価が基準となり、次に材積の多少によって変動幅が決定される。従って、最終的な桧価格水準規定は、材積規定型として表れる。買い手は、自らの資金力に応じて、材積の多少をめぐって桧獲得競争を展開する。一定幅のm³単価値を共有できない者は、この競争より排除されている。

以上の小丸太桧をめぐる買い手間競争構造を整理すれば、まず第一にm³単価によって購入の成否が規定され、次に桧材積の多少によって購入者の分化が見られるということになる。

次にこの対極として中目6m材と大丸太が示される。この場合は材積とm³単価の持つ意義が全く逆になっている。すなわちこの両桧においては、まず第一に桧材積によって購入の成否が規定され、次にm³単価の上下によって購入者の分化が見られることになる。ただし材積の変動幅は小さく、しかもこの因子の読み違いをする買い手はほとんどいないので、事実上の競争は、m³単価水準の設定局面で現れよう。

以上二つの対極の中間に、柱材6m材が両型を併存させて存在している。これを柱6m材商品の特性を示すものとして、一つのタイプに設定した。この前後に材積規定型が薄れ分化するタイプと、二分化型が薄れm³単価規定型に移行するタイプが存在する。前者を分化移行型、後者を収束移行型として特性化し得よう。これらにおいては、買い手間競争構造は、複雑化、錯綜化して現れる。

2. ヒノキ丸太価格形成の特徴

ヒノキ丸太、と言えば直ちに柱用丸太を連想するほどに、ヒノキ丸太の商品特性を柱材が示していると、

多くの人々が考えている。丸太からどんな製材品種をとるか、という使用価値面から規定したなら、“柱丸太”という分類区分を、ヒノキ丸太が持っていることは、スギ丸太と比較しても、独自の特徴だと言ってよい。他の区分が、小丸太とか中目丸太とか、径級区分の総括表現をとっていることから、柱丸太の区分は、目を引く事実である。

ところが、ヒノキ丸太特有のこの柱丸太区分を、価格形成規定要因によりタイプ分けした時には、一つの明瞭なタイプとして検出し得なくなる。柱丸太の主力商品である 3 m 材にしてからがそうなのである。

市売市場における桤単位の取引において、小丸太は、買い手が m^3 単価を、“相場値”として共有し、桤材積によって桤価格の形成が見られる。桤価格が最終的に材積規定型として現れることは、既に価格形成上果たす m^3 単価因子の持つ重要さが内包されている事実を示す。材積は、誰の目にも明らかな客観指標である。それに対して m^3 単価は、買い手による丸太買い行動の結果として表面化する数値であり、それを複数の買い手が結果的に共有して始めて客観指標たり得る。

このように考えると小丸太という商品の桤価格形成は、 m^3 単価と材積とを相互に連動させて買い手が購入行動を起すのではなく、 m^3 単価という本来潜在的・主観的性格を持つ因子を固定させて、実際の丸太桤積みの大小に従って購入行動を起すのである。 m^3 単価因子から見てヒノキ小丸太は、それだけ均質な条件を具備していると言ってよい。

一方、これと対極にある中目 6 m 材と大丸太 4 m 材は、 m^3 単価の変動が大きく、買い手は、自ら設定する m^3 単価を前提にして、材積という客観指標を基礎に桤価格を読み、購入行動を起すか否かを判断する。従って、買い手の共有因子は、この場合桤材積であり、その変動が小さいなら、これらの商品は、この点において均質化された条件下にあると言える。事実、中目 6 m 材と大丸太 4 m 材は、そのような条件を備えている。

ところで柱丸太に戻ると、桤価格形成において見られた上述 2 タイプが、混在・錯綜して現れている。そしてその分化が明瞭に 2 分化しているのは、柱 6 m 材である。柱 6 m 材は、小丸太タイプと中目 6 m 材・大丸太 4 m 材タイプとに 2 分化した商品群の総合だと言ってよい。従って、もしこれを 1 商品としてとらえるなら、H 6 桤の価格形成は、材積と m^3 単価の両因子により規定されると言える。木材価格を規定する数量化可能因子は、材積と m^3 単価だという常識は、ここから生まれている。しかし、現実には H 6 桤は、小丸太と中目 6 m・大丸太 4 m 材両方の価格形成タイプを持つ、2 分化混合商品なのである。それ故、価格形成上 2 つの均質化要因を明瞭に示す商品としての特性を持っていると言える。

この H 6 桤を中心にした両端の H 3, H 4 桤, M 3, M 4 桤は、H 6 に見られた 2 分化条件が混在し、不均質な商品群となっている。これらの桤においては、特定の価格形成パターンは見出し難く、複雑に錯綜した買い手行動展開の実態を示している。価格形成面からは、柱丸太や中目丸太の主力商品については、明瞭なタイプを検出し難いというのが、ヒノキ丸太の特徴を端的に示す事実ではなからうか。これらの桤については、買い手及び売り手双方共に、材積・ m^3 単価両因子の変動条件下における購入競争を展開していると言えよう。それ故、市売市場における桤積みという丸太商品ロット形成いかんが、ことさら重要性を持つことになる。

V 今後の課題

以上の手法や結果を、他の市売市場、特に立地の地方性を考えて分類した対象に適用し、価格形成機構の解明の発展につなげて行きたい。これは又、市売市場の機能を見る上でも有効な成果を提供してくれよう。

さらにスギ丸太等他樹種との比較も、今後の課題として残されている。一層の研究の推進を図らねばならないと、心を引き締めている。

VI 謝 辞

本研究を進めるに当たり、常日頃御援助、御助言を頂いている岐阜原木相互市場の方々に厚くお礼申し上げます。又、適切な批判を頂いている同学の集団・酒乱会のメンバー各位にもお礼申し上げます。おかげな

るまい。

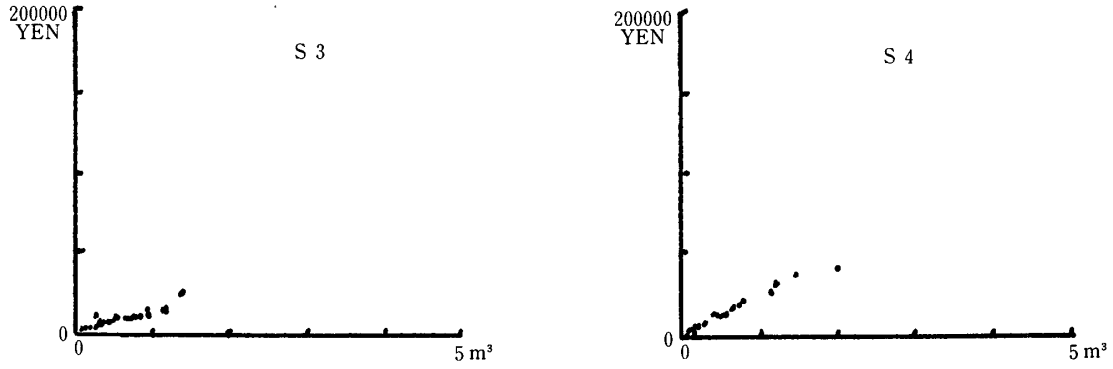


図1 材積・桝価格散布図
Fig 1 The dispersion figure of volume and price of a log stacking.

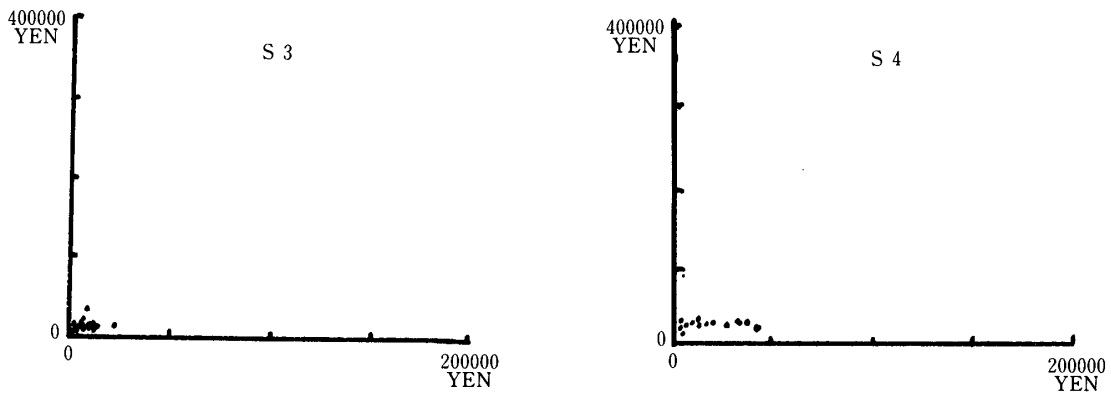
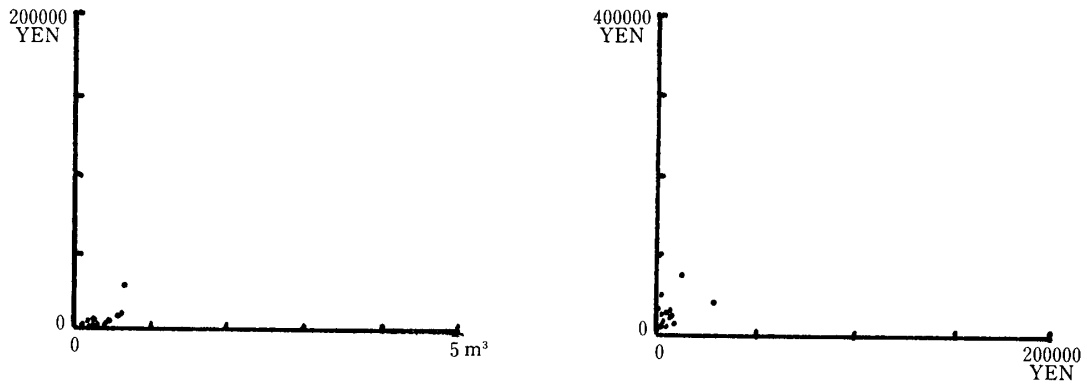


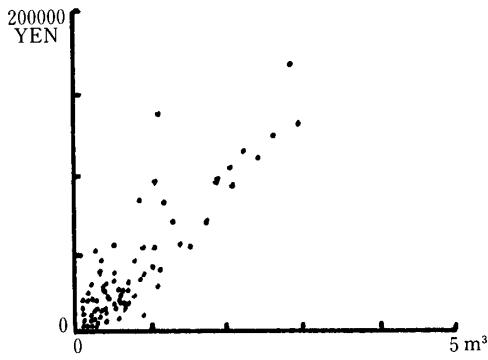
図2 桝価格・m³単価散布図
Fig 2 The dispersion figure of price of a log stacking and unit price of a cubic meter



材積・桝価格散布図
The dispersion figure of volume and price of a log stacking

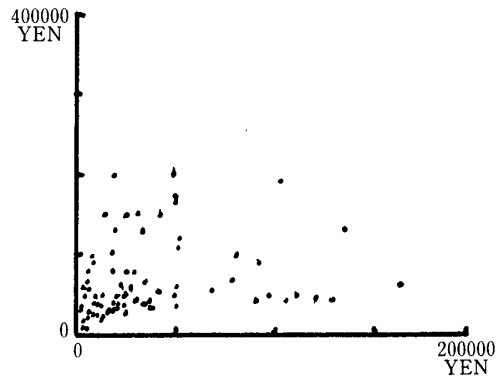
桝価格・m³単価散布図
The dispersion figure of price of a log stacking and unit price of a cubic meter

図3 H 2 散 布 図
Fig 3 The dispersion figure of H 2



材積・桤価格散布図

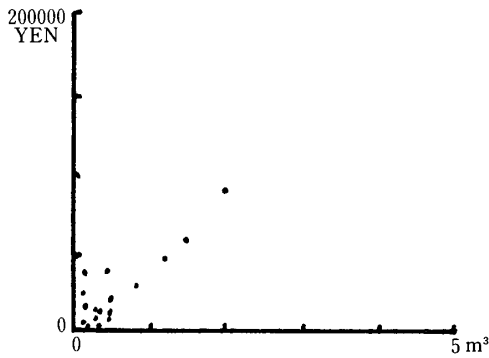
The dispersion figure of volume and price of a log stacking



桤価格・m³単価散布図

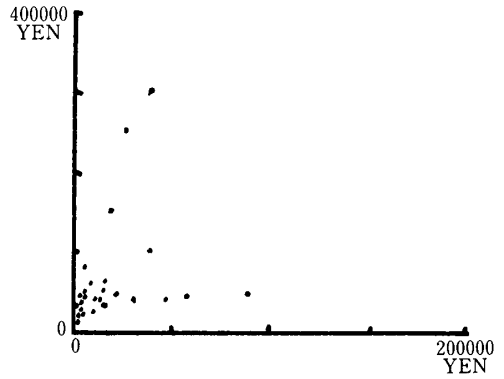
The dispersion figure of price of a log stacking and unit price of a cubic meter

図 4 H 3 散 布 図
Fig 4 The dispersion figure of H 3



材積・桤価格散布図

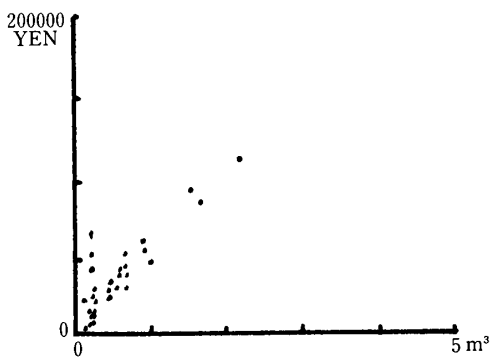
The dispersion figure of volume and price of a log stacking



桤価格・m³単価散布図

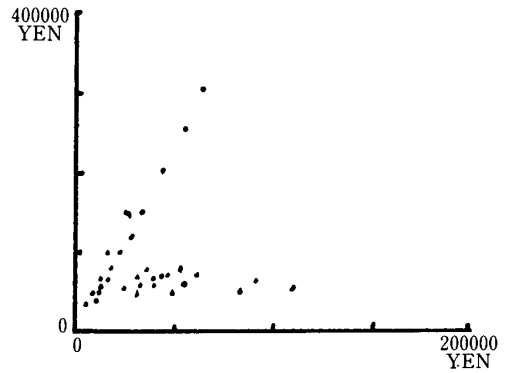
The dispersion figure of price of a log stacking and unit price of a cubic meter

図 5 H 4 散 布 図
Fig 5 The dispersion figure of H 4



材積・桤価格散布図

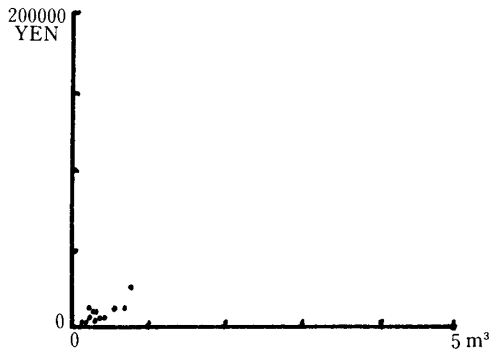
The dispersion figure of volume and price of a log stacking



桤価格・m³単価散布図

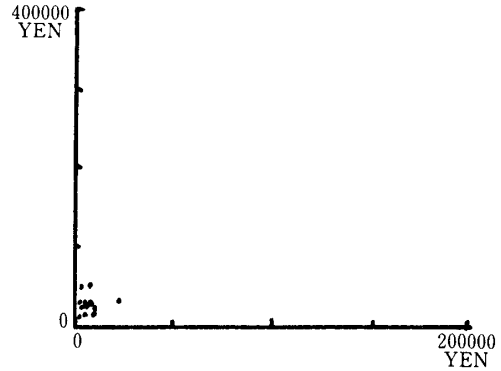
The dispersion figure of price of a log stacking and unit price of a cubic meter

図 6 H 6 散 布 図
Fig 6 The dispersion figure of H 6



材積・桎価格散布図

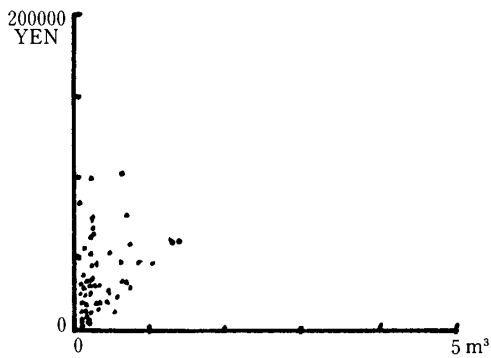
The dispersion figure of volume and price of a log stacking



桎価格・m³単価散布図

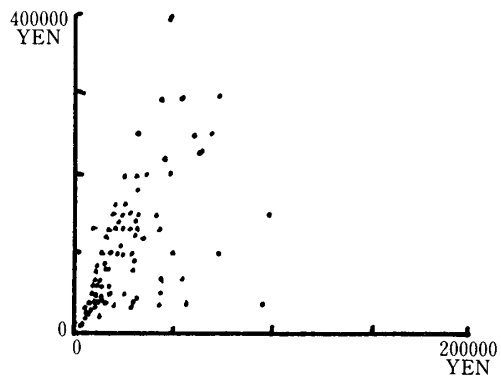
The dispersion figure of price of a log stacking and unit price of a cubic meter

図7 M2 散布図
Fig 7 The dispersion figure of M 2



材積・桎価格散布図

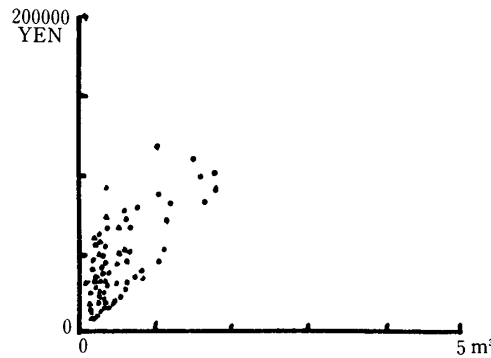
The dispersion figure of volume and price of a log stacking



桎価格・m³単価散布図

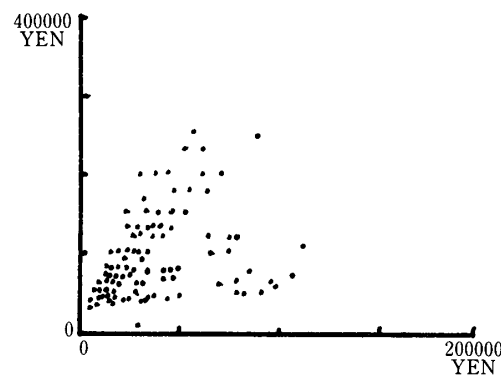
The dispersion figure of price of a log stacking and unit price of a cubic meter

図8 M3 散布図
Fig 8 The dispersion figure of M 3



材積・桎価格散布図

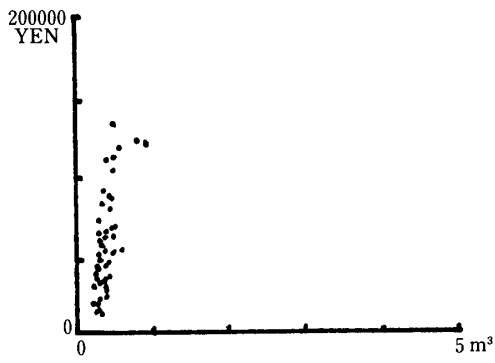
The dispersion figure of volume and price of a log stacking



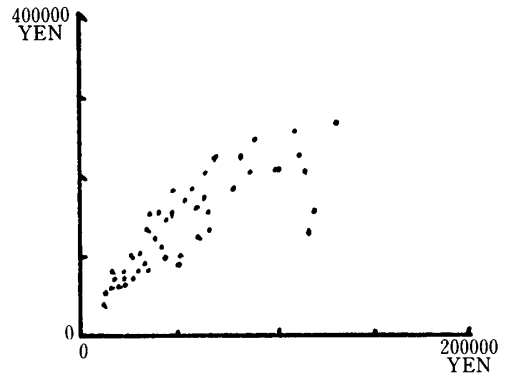
桎価格・m³単価散布図

The dispersion figure of price of a log stacking and unit price of a cubic meter

図9 M4 散布図
Fig 9 The dispersion figure of M 4

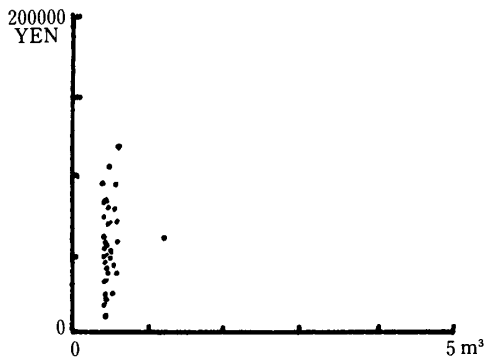


材積・桤価格散布図
The dispersion figure of volume and price of a log stacking

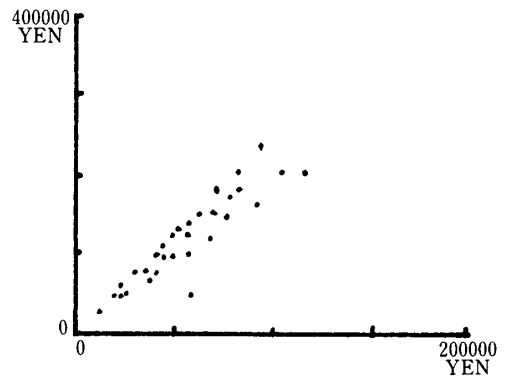


桤価格・m³単価散布図
The dispersion figure of price of a log stacking and unit price of a cubic meter

図10 M 6 散 布 図
Fig 10 The dispersion figure of M 6



材積・桤価格散布図
The dispersion figure of volume and price of a log stacking



桤価格・m³単価散布図
The dispersion figure of price of a log stacking and unit price of a cubic meter

図11 L 4 散 布 図
Fig 11 The dispersion figure of L 4